

## てまりの花

宮城県岩沼市立岩沼北中学校

三年 佐藤 ほのみ

「てまり、お誕生日おめでとう」

いつもより豪華な料理に、おいしそうなケーキ。みんなでお祝いする日。本当なら、今年で九歳になります。しかし妹はもうこの世界にいません。

八年前の五月、初めての誕生日を迎える三カ月前に妹は亡くなりました。朝起きると元気な妹の明るい声は聞こえず、耳に入るのは両親の泣き叫ぶ声と救急車のサイレンだけ。当時小学一年生の私には、状況を理解することも、しようとすることもできませんでした。

「てまりちゃんね、お空に行っちゃったんだって。何も言わないで行くなんて、ほんとうにママを困らせるね。」

何もわからなかった私に、母が泣きながら必死に説明してくれました。しかしまだ小学一年生だった私は全く話を聞こうとせず、

「返して、返してよ！ まだ遊ぶの、誕生日お祝いするの、一緒にご飯食べるの！」

と、祖母に言い続けていました。八年前の話ですが、今でも鮮明に覚えています。

私の妹は、脂肪酸代謝異常症という病気でした。小さい子供は、胃腸炎などで水分を摂取したり食事を取ったりができなくなると、自分の脂肪を燃焼してエネルギーに変えます。この病気は、脂肪をエネルギーに変えることができなくなってしまうのです。普段は食事でも水分も摂れるので元氣ですが、胃腸炎などになるとその機能が働かず、エネルギー不足になってすぐに処置をしないと亡くなってしまいます。私の妹の場合は、その脂肪が肝臓に溜まって脂肪肝となっていました。この病気の原因は遺伝でした。父と母が脂肪酸代謝異常症の保因者で、私たち兄弟は四分の一の確率でこの病気になる可能性があったそうです。

あの時、妹はまだ九カ月。あれからもっと大きくなって、たくさん遊んで、たくさん笑ってたくさん泣いて。今は小学生になっていて、ランドセル背負って学校行つたのかな、など考えてしまうことはたくさんあります。でも、過去のことを振り返っても仕方がない。過去を忘れずに、未来に向かって歩んでいく。私はそう決めています。

妹が亡くなってから初めてのクリスマスの日。五月以来笑顔がなかった母がとても笑顔でした。

「ほのみ、弟できたよ。てまりちゃんからのクリスマスプレゼントなのかな。」

その時は、そんなわけないと思つて母の話を信じられませんでした。今の私にはその時の母の気持ちがよく理解できます。大好きな娘がいなくなり、五人だった家庭が四人になり、いつも聞こえていたたり前の泣き声は聞こえない。一日に何回も作っていたミルクも作らない。その時の母の心の傷は計り知れません。そんな中、おなかに宿ってくれた一つの小さな命。母にとって、どんなに支えとなったことでしょうか。

私の好きな曲に、「授かった命の全てをかけて燃え尽きるまで生きていく」という歌詞があります。妹は、神様から、親から授かった命を一生懸命燃やして、九カ月という短い生涯を終えました。それが妹にとって幸せであったのか、それともとても辛かったのか。私はそれを知ることができません。旅立つときはとても怖かったと思います。一歳にもなっていない子が、一人で暗いところへ行くのです。もっと幸せにしてあげたかったと思うことしかありません。しかし私は決めました。妹がいる空の下で、見守られながら、支えられながら真つすぐに生きます。一日の終わりに、

「今日はこんなことがあつて、とても幸せだった」と言えるように毎日を過ごします。

人は誰も一人ではありません。私には妹がいます。そして空の上の妹には、私たち家族がいます。毎日支えながら、支えられながら生きています。妹は私に毎日を幸せに生きる力をくれます。だから毎年誕生日は、空に向けて「いつもありがとう」と必ず言います。

妹が亡くなった後、家の庭に植えた覚えのない花がたくさん咲いていました。ピンクの、小さくて可愛らしい妹に似ている花です。調べてみると、「イモカタバミ」という花でした。花言葉は、輝く心、喜び、母の優しさ。妹が生まれてきてくれて、私たちが感じた喜び、妹に対する母の愛情。見た目も花言葉も、まさに妹です。私たち家族はこの花を「てまりの花」と呼んでいます。

大好きなこの花とともに、私はこれからも前を向いて、力強く生きていきます。